

「生きる力を育成する教育の創造」

～ 授業規律の確立と、意欲的に学びあう生徒の育成を通して ～

I 主題設定の理由

昨今の多様な価値観や考え方を含んだ社会の中で、主体的に相互理解を深めながら豊かな人間関係を形成し、明確な意思の下に真の「生きる力」を身につけていくことは、本校の生徒にとってとても重要な課題である。また、新学習指導要領では「生きる力」は確かな学力と豊かな心、健やかな体の調和に基づいて育まれるとされており、まさに本校の校訓である「自立創造」を具現化するものである。昨年度の研究および学校評価における課題を見てみると、「生徒の主体性の伸張」「基礎基本の定着」「家庭学習の充実」が挙げられる。生徒が主体的に学び、確かな学力を身につけるためには、その基盤となる授業規律を確立し、互いに学び合うことのできる集団づくりが大切であると考え、そこで今年度は、昨年度までの取り組みを継続的に行うとともに、授業規律の確立を基本に置きながら、基礎基本の定着の取り組みや授業と家庭学習を結びつけた授業の工夫を行い、昨年度までの課題解決を図りたいと考え、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 主体的に学びあう集団作り

(1) 学びの場としての基本となる授業規律の確立

- ・チャイム席，号令のかけ方，はじめの終わりのあいさつ，「はい」という返事の仕方，話を聞く態度を徹底させる。全職員共通意識のもと指導を行う。

(2) 学びあいの形を効果的に取り入れた授業の工夫

- ・ペア，グループ等の授業形態の工夫を教科ごと行う。
- ・研究授業の実践

2 学年 学級活動研究授業（12月）（峡東教育事務所指導主事招聘）

2 基礎基本の定着

(1) 毎年行われている「三大会」の取り組みの見直しや検討を行い，基礎基本の定着を図る。

(2) 授業の中に基礎基本の指導を取り入れる。

3 家庭学習の充実

(1) 意欲的な家庭学習につながるような授業の工夫を行う。

(2) 家庭学習ノートを効果的に使い，家庭学習への意欲を喚起する。

(3) 「三大会」の取り組みを家庭でも行い，家庭学習の定着を図る。

4 各教科「実践報告シート」の作成

- (1) 「学び合い」設定の理由（予想される効果）
- (2) 「学び合い」の形態・授業の流れ、授業後の反省等

5 事前・事後アンケートの分析

- (1) 学習に関するアンケート実施（6月，1月）

III 成果と課題

1 成果

- 「主体的に学びあう集団作り」においては、研究授業を通して、学びあいの形を効果的に取り入れた授業の工夫、という点で成果が伺えた。
学級活動の中で、あるテーマについて4～5人のグループで話し合い、次にグループのメンバーを変えて、またより深く話し合うという作業が行われた。多くの仲間の考えやアイデアを知ることにより、自分の考えが深められ、学びあいが効果的に行われていた。また、主体的に学びあうには、学級集団が基本であり、お互いの考えを尊重できる雰囲気作りが大切であるということが実証された。
- 「家庭学習の充実」においては、家庭学習ノートを生徒全員に持たせ、毎日提出するというところを行った。継続して提出できた生徒に関しては、家庭学習の習慣が身に付き、成果が上がったと言える。来年度も継続して取り組んでいきたい。
- 各教科による「実践報告シート」を昨年度から継続して作成することで、各教科、各単元の学び合いの効果的な活用場面を蓄積させることができた。
- 事前アンケートを行うことで、現状での本校生徒の課題、校内研究で取り組むべき課題が明確となった。また事後アンケートから、成果の上だった項目、または課題が残った項目が浮かび上がり、一年間の研究における検証を行う上で役立つものとなった。

2 課題

- 「授業規律の確立」においては、年間を通して徹底して取り組むことができなかった。各教室や廊下等に掲示物で示し、生徒に周知する必要があった。また教師側の意識を高めたり、定期的に全体で確認したりすることも大切であった。
- 「家庭学習の充実」においては、生徒全員に家庭学習の習慣化が定着したとは言えない。家庭学習と授業との関わりを持たせることや家庭との連携も図ることも大切である。来年度も更に研究を深めていきたい。

IV 成果物

- 1 各教科「実践報告シート」
- 2 2年学級活動授業案

（研究主任 武藤真由美）